

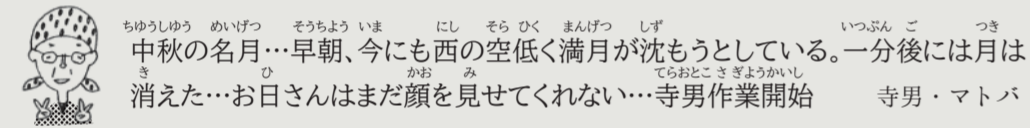
寺男の独り言です…
仲秋の候…
時々秋風が気持ちよく頬を撫でるが、
まだまだ蒸し暑い日が続くのでお身体を
労って下さい



これから山がオシャレする紅葉が始まります…
気温が下がり、日照時間が短くなると、植物は光合成しなくなる。生き残る為に余分なエネルギー消費を避ける為に葉を落とす。木の自傷行為…切り捨てられる前に色付くのである
銀杏は木が水分を葉に送るのを止める。葉が光合成していた緑の色素にかかれていた黄色い色素カロテノイドが顔を出し黄色く色付く。また、楓は木が別れの気配を告げようとする葉の方から別れを告げる。光合成していた葉が離層という壁を作って木への音信を断つ。葉に残ったブドウ糖が日光を浴びて赤い色素アントシアニンを作り真っ赤に色づくのである…て、いうことらしい
まるで、男と女の関係のよう…



最近、めっきり趣味の自転車の走行距離が伸びない！コロナのせいかな？寄る年波のせいかな？以前は100kmは普通に走っていたが、今は走りに行っても50km悲しいです！?



日々のあわ
前半はたまに見るくらいだった朝ドラ「おかえりモネ」に、途中からはまてしまいました。誰しも、その人にしか分からない痛みがある。/ 痛みを誰かと比べることはない。/ 心を尽くして分かろうとしてくれる人がいることのありがたさ。/ 痛みと向き合い、心をひらいて一歩踏み出すことで光が通すこともある。/ 何もできなくても、どんな人も、いるだけでいい。/ 誰もが誰かの支えになれる。/ 作品から伝わってくるメッセージが胸に響いてきて、涙し。というよりも何か祈るような気持ちで見ています。どうか、すべての人生に光あれ。と。
作中でも描かれる震災や、昨今のコロナ禍において、自分の苦しみや痛みを、他の人のそれと比べてしまうために認められなかったり押し殺してしまったりは、よくあるのではないのでしょうか。「あんなの痛み、苦しみに比べると自分なんて」と思ってしまうことが、ほかることなどできないはずの、その人固有の苦しみや痛みも、大切なものも、「世間」という圧力の中でできあがった尺度ではかかれて、「瑣末なこと」「不謹慎」「不要不急」などと断じられてしまう自粛の時代。〈誰かの痛み〉に思いを寄せせること。〈自分の痛み〉をそのまま認めること。そのどちらもが大切なのだと、あらためて気がさせてくれたドラマです。

先日の断水の影響を受けた方々、本当にご苦労様でした。災害非常時には境内の井戸水を汲んでいただけます。生活用水にご活用ください。

から、ごきぎる範囲で結構です。
な、お正月を過ぎたら普段のお正月に帰ります。元旦には、家族揃ってお仏壇にお灯明と線香をあげ、阿彌陀仏と合掌拝し
てから、お正月の挨拶をします。門松やしめ縄は、神道にまつわるものなので、浄土真宗では用いません。初詣というと、神社へ行かれた方が多いですが、お寺へもぜひご家族揃ってお参りください。初詣では学業成就や家内安全など「お願い事」をすることがよくあります。

お寺では新しい年を迎えられたことに感謝することも、じっくり我が身を振り返り、人生にとって何か大切が見つめ、確かな依りどころとなるお念仏を味わいましょう。
善行寺では元旦に「毎朝九時から、朝のお勤めを修正会/元旦会」としておこないます。お参りくださるのも歓迎です。ニューチューブでも配信しますので、ご自宅などからもお参りいただけます。
二緒にお念仏をし、去るを聞き、心新たに開法の生活を始めましょう！



森嶋、僧侶になってもよ

善行寺の「おあさじ」では、住職と僕が日替わりで法話とお勤めをしており、毎回仏教本を朗読して味わわせていただいています。

現在は『拝読浄土真宗のみ教え』の味わい(著：藤井邦彦)を朗読しています。
本願寺出版社の本「拝読浄土真宗のみ教え」の味わい方(解説)が記されており、これ一冊読めば浄土真宗の教えの丈杵がわかる様になっています。藤井先生のお味方も日常生活の身近な内容なので初めての方にお勧めです。
「味わう」は普段食事をする時にしか使いませんが、浄土真宗では「仏様のお話を味わう」といった風に使います。耳で体で聴き味わい、体内へ取り入れていく。そんな感じでしょうか。
今回はこの本の中から「他力本願」を紹介したいと思います。

親鸞聖人は仰せになる。
他力といふは如来の本願力なり
他力というのは、阿彌陀如来の本願のはたらきであり、これを他力本願という。他力本願は、如来から私に向けられたはたらきであって、自分の望みを他人まかせにすることではない。(後略)

お正月を迎える準備は何かありますか？
お念仏をきれいにしましょう。元旦にはお寺にお参りしてお念仏しましょう。

お盆と同様に、浄土真宗ではお正月だからと特別なことはしません。年内にお仏壇のほごりやすすを掃除し、お念仏を整えて迎春準備をいたしましょう。お餅は、普段は三具足(ろうそく立て、香炉、花瓶各一具)のところに五具足(ろうそく立て、一對香炉一具、花瓶一對)にします。これらを置く、お前卓には三角の形をした「打ち敷」という布を敷き、お餅をお供えしましょう。供花は松が良いでしょ。現代では、コンパクトなお仏壇も増えています

皆様からよく寄せられる「仏事、こんな時はどうすれば？」という質問について、なるべくわかりやすくお答えしていく不定期のコナリーです

「われにまかせよ、わが名を称えよ、浄土に生まれさせて仏にならしめん」という阿彌陀様の願い(本願)に、わたくし(凡夫)の身をまかせるのが「他力本願」の本業の意味です。

藤井先生の文にはこうあります。

真実の道を歩もうとすればするほど、厳しく自己を問うことになります。(中略)そこで親鸞聖人は、阿彌陀如来の無量の光に照らし出された自己を見つめた時、とても自分の努力で救われる(仏になる)要素は絶無であることに気づかれました。(中略)しかし、このようなわたくしだからこそ見捨てることなく常に寄り添い、どんなことがあっても救い抜くという願いを持ち、はたらきかけている阿彌陀如来のお慈悲の心をいただかれたのです。

それほどの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ(歎異抄 後序)

「自分は水真性で弱れる凡夫である。罪深き者である。」という自覚。深い自省があり、そんな自分こそを救いの目当てにしている阿彌陀様のお慈悲のありがたさ。

そんな阿彌陀様に身をゆだねられている聖人の安心・嬉しさ・感謝がこめられたような「かたじけなさよ」の言葉が僕は好きです。

「COTEN ラジオ」という世界史を紹介するインターネットラジオにハマリ、毎日聞いています。おすすめです。
僧侶・森嶋淳哉(釋淨信)

オリジナルTシャツと手ぬぐいできました。
デザインのタイトルは「祈りの行進」。大変な事が次々と起こってくる世界で、私たちは苦悩し続ける存在です。親鸞聖人は「人生は暗闇を牛さぐりで歩むようなものである。風雨にさらされることもあるが、嘆くことはない。阿彌陀さまが用意してくださった灯火がある。」とおっしゃっています。

先頭に灯火を掲げた衆隊の一行。衆しげでありながら、どこか悲しげにも見えるのは一人一人が苦悩を抱えながらも、灯火を頼りに前に進もうとしているから。なんて想像をしています。行進の中に僧侶も混じっているとミソです。眺めていると、儼々としたメロディーが聞こえてきそうな、そんな素敵な図柄になりました。デザインは型染め作家の関美穂子さんです。

善行寺で販売しております	
Tシャツ(S/M/L/XL)	3400円
手ぬぐい	1200円

Tシャツ・手ぬぐいの製作にかかる費用を除いた全ての金額を、子どもの貧困問題にとりくむ「おてらおやつクラブ」に寄付させていただきます。

駐車場の向かいに小さなお店を作っています。そこで週に一回程度、喫茶店のマスターになろうかと思っています。詳しくは次号で。住職・宇治田真宣(釋真宣)

善行寺墓地のお約束
皆さまに気持ちよくお参りいただけるようご理解ご協力をお願いいたします

- お墓の有無や場所を聞かれてもお答えできません
プライバシー保護のためお伝えしないことになりました。お墓の代表者の方から、お参りに来られる親族や友人にお墓の種類や場所を伝えてください。
- 線香・マッチの備付は8時頃～17時頃までです
防犯のため夜間は片付けています。時間外にお参りの方はご持参ください。
- なまもの(食品)のお墓へのお供えはなるべくご遠慮ください
お墓参りの間にお供えし、お帰りの際にお持ち帰りください。
- 着色されたお花を使った供花はなるべくお避けください
着色料が溶け出しお墓に付着すると、取れなくなってしまいます。
- ごみや燃え残りの線香はごみ箱に捨ててください
供花は短く切って捨ててください。線香の燃え残りは土に還りませんので、ごみ箱にお願いします。
- 供花は枯れたり水がいたんできたら処分させていただきます
強風の日に飛ばされたり、ボウフラが発生するため。処分しないでほしい方は寺務所までお申し出ください。
- 火のついたたばこのお供えはご遠慮ください
善行寺は禁煙です。お参りの方の受動喫煙防止のためにもお守りください。

※お参りの際に、何かお気づきのことがございましたら寺務所までお声がけください。